

芸 術

1 学習指導の工夫・改善

(1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

芸術科においては、扱う題材を通して育む資質・能力に応じて、探究のプロセスである「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の活動を適切に取り入れながら、各科目の特質に応じた見方・考え方を働かせた学習活動を推進していく必要がある。その際、主体的に学習に取り組む場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかなど、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を進めることが重要である。

音楽においては、生徒自らが感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けながら、自分なりの表現意図をもって音楽で表現したり、曲のよさや美しさを味わいながら鑑賞する能力をより深めていくことが重要になる。

美術・工芸においては、生活や社会の中の美術や美術文化、工芸や工芸の伝統文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指すとともに、学習指導要領の〔共通事項〕で示されている、造形を豊かに捉える多様な視点の育成のため、「表現」と「鑑賞」を相互に関連させた学習の充実を図り、学習活動の様々な場面に試行錯誤の機会を設ける必要がある。特に「鑑賞」においては、美術の働きや美術文化、工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する鑑賞の機会について改善することが重要になる。

書道においては、主体的・対話的で深い学びを軸とし、自らの意図に基いて構想し工夫・調整しながら学習を深めていくことが求められる。加えて探究的な学習活動を効果的に設けるなど、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することが重要になる。

(2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

芸術科においては、教科等横断的に現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する観点から、芸術的な感性を生かし心豊かな生活や社会的な価値を創り出す創造性を育むことが求められている。年間指導計画の作成に当たっては、他教科や総合的な探究の時間との関連を考えながら、題材の選択、学習内容や学習時期の設定等を適切に考えていく必要がある。

次の表は、音楽Ⅰの年間指導計画の例である。

教科名		芸 術	科目名	音 楽 Ⅰ		
科目の目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				
履修学年		1 学年	単位数	2 単位		
月	題材名	学習内容	評価規準	評価方法	関 連	
4	校歌を表現しよう	【音楽・美術・書道の3科目による合同授業形式】 ①学校や地域の歴史的背景と校歌の歌詞の内容との関わりを理解する。 ②校歌を知覚・感受し、楽曲にふさわしい表現方法を考えて歌唱する。 ③校歌の歌詞の表す心情や情景を絵や書で表す。	【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【技】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思】音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しそれらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うのかについて表現意図をもっている。	※ワークシートの記述内容 ※歌唱	※総合的な探究の時間「高校3年間の生活をデザインしよう」と関連 ※書道、美術の「イメージを表現しよう」と関連	
9 ～ 10	地域に伝わる音楽 教材曲→「子守歌」(地域に伝わる伝承歌)	①子守歌を知覚・感受し、楽曲にふさわしい表現を考え歌唱する。(歌唱) ②子守歌の歴史的・文化的背景等を理解する。(歌唱) ③子守歌と人々の生活の関わりについて考え、伝承歌の価値や意味を理解する。(歌唱) ④子守歌の歌詞に自分達で旋律を作り、新しい子守歌を作曲する。(創作) ⑤作曲した「子守歌」を地域の文化祭で発表する。(創作)	【知】①曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。(歌唱) ②音素材を連ねた時の響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。(創作) 【技】①曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。(歌唱) ②創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽を作る技能を身に付けている。(創作) 【思】①音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりを考え、どのように歌うのかについて表現意図をもっている。(歌唱) ②リズム、速度、旋律、強弱等を知覚しそれらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように音楽を作るのかについて表現意図をもっている。(創作)	※ワークシートの記述内容 ※グループ及びペアの学習の様子(観察) ※歌唱 ※作品(楽譜)	※国語科の「詩の解釈」との関連 ※地理歴史科の「地域の歴史」と関連 ※家庭科の「地域のくらしと伝統食」と関連	
11	箏の魅力 教材曲→「さくら」	①箏曲「さくら」を知覚・感受し、音色や奏法を工夫しながら、楽曲にふさわしい表現をする。	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したことの関わりを考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	※ワークシートの記述内容 ※演奏	※総合的な探究の時間「国際理解(日本のよさや美しさを紹介しよう)」と関連	

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

次に、新学習指導要領を踏まえた具体の学習指導計画について、科目別に示す。

(1) 音楽 I の計画例

ア 題材名 ピアノの演奏表現を聴き味わおう

イ 内容のまとめ 「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1)

ウ 教材名 「子犬のワルツ」(作曲:F.ショパン)

本題材では、演奏者による表現の違いにスポットをあて、鑑賞する。そのことから、知識・技能における目標や評価規準において「演奏の表現上の効果」として、演奏者による様々な工夫について学習することを明示している。教材の「子犬のワルツ」は強弱やテンポの設定や変化の幅が演奏者によって異なる楽曲であり、全体を鑑賞しても2分に満たず、繰り返し比較鑑賞するのに適した教材であると考え設定している。学習に当たっては、ICT機器を用いて演奏を聞き比べたり繰り返し聴いたりして、どのような表現が相応しいか生徒それぞれが考えられるように指導する。

エ 題材の目標

(ア) 曲想や演奏の表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する。(「B鑑賞」(1)イ及び〔共通事項〕(1)イ)

(イ) 強弱、テンポを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。(「B鑑賞」(1)ア及び〔共通事項〕(1)ア)

(ウ) 演奏表現の違いに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

オ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想や演奏の表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 強弱、テンポを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	態 演奏表現の違いに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

カ 題材の指導と評価の計画 (3時間)

時	○学習内容 ・学習活動	知	思	態
1	<p>問い：この曲の特徴はどのようなところだろうか。</p> <p>○「子犬のワルツ」の概要を知る。</p> <p>・楽曲を3つの部分に分けて鑑賞し、曲想と音楽の構造との関わりについて、整理する。</p> <p>問い：どのようなところに演奏の特徴が表れるだろうか。</p> <p>○最初に聴いた演奏と異なる演奏を聴き、演奏の表現上の効果の違いがどういったところからきているか、考える。</p> <p>・演奏を聴き比べ、演奏の表現上の効果の違いと演奏の特徴(強弱やテンポ等の扱い)との関わりを考える。</p> <p>・自分にとって「この曲に相応しいと思う表現に一番近い演奏」と感じた演奏を1つ選び、理由を書く。</p>	<p>知</p>		

振り返りシート
の記述のほか、
グループでの
交流における
取組の状況
等も観察
する。

時	○学習内容 ・ 学習活動	知	思	態
2	<p>問い：どのような表現が相応しいだろうか。</p> <p>○様々な表現を聴き味わう。</p> <p>・ ICT 端末を用い、様々な演奏を聴き比べたり、繰り返し聴いたりして演奏の表現上の特徴と演奏の特徴（強弱やテンポ等の違い）とに注目しながら、楽曲を聴き味わう。</p> <p>・ 鑑賞した中から再度「この曲に相応しいと思う表現に最も近い演奏」を選び、楽曲と演奏についてそのよさを紹介する文章を作成する。</p>		思	
3	<p>問い：なぜ様々な表現が生まれるのだろうか。</p> <p>○表現の違いについて考える。</p> <p>・ グループで作成した文章と選んだ演奏を紹介し合い、意見交流する。</p> <p>・ 学習したことを踏まえて問いについて考え、題材全体の振り返りの文章を作成する。</p>			態

「総合的な探究の時間」で既習の「情報の収集」、「整理・分析」を活用する。

キ 学習指導案（2時間目／3時間中）

本時の目標：様々な演奏を聴き味わい、楽曲と演奏についてそのよさを紹介する文章を作成することができる。		
過程	○学習内容 ・ 学習活動	●指導上の留意点 ◆評価方法
導入 5分	<p>○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>・ 演奏表現の多様性について確認する。</p> <p>・ 本時の目標を確認する。</p>	<p>●前時に作成した文章を紹介したり、再度演奏を聴いて演奏上の効果の違いを確認したりして、学びのつながりを意識させた上で、本時の学習の見通しがもてるようにする。</p>
展開 30分	<p>○ICT 端末を用い、様々な演奏を聴き比べ、演奏のテンポや強弱等の違いに注目しながら、聴き味わう。</p> <p>・ 提示されたリストや検索により、聴く演奏を選択する。</p> <p>・ 楽曲の特徴を踏まえながら聴き、曲想や表現上の効果の違いと演奏の特徴（強弱やテンポ等）との関わりについて考え、メモに残す。</p>	<p>●演奏の比較に当たっては、演奏の表現上の効果の違いに関する学習を踏まえて、この曲に相応しい表現はどのようなものなのか自分なりに考えながら演奏を聴き比べられるように指導する。</p> <p>●様々な演奏を聴けるよう整理されたリストを作成したり、検索に当たってのヒントを伝えたりするなど、スムーズに鑑賞に移行できるように工夫する。</p>
まとめ 15分	<p>○鑑賞した中で、この曲に相応しいと思う表現に最も近い演奏を選び、楽曲と演奏についてそのよさを紹介する文章を作成する。</p> <p>・ 鑑賞を振り返り、曲想や表現上の効果と演奏の特徴との関わりについての考えを整理する。</p> <p>・ 自分の感じ取ったことや考えが伝わるよう、楽曲と演奏についてよさを紹介する文章を作成する。</p>	<p>●文章の作成に当たっては、考えがよりよく伝わるよう、曲想や演奏の表現上の効果と音楽の構造との関わりについて自分が考えたことを根拠として盛り込むよう指導する。</p> <p>●関連して、文章表現をスムーズに行えるよう、テンプレートを用意する。</p> <p>◆作成した文章【思考・判断・表現】</p>

< 第2時（後半）におけるワークシートの例 >

ピアノの演奏表現を聴き味わおう

○「この曲に相応しいと思う表現に最も近い演奏」を選び、楽曲と演奏についてそのよさを紹介する文章を作成しよう！

①には「子犬のワルツ」の良さについて、②には今回学習した中で最もこの曲にふさわしいと感じた演奏について、自分の考えを整理して作成しよう。また、自分の考えがよく伝わるよう、感じたことや気付いたことの関わりについて考えながら理由を整理しよう。

私が考えるこの曲のよさは、

① そう考えた理由は、

です。

です。

そして、私が聴いた中で最もこの曲にふさわしい演奏だと考えたのは、

です。

② そう考えた理由は、

です。

そして、私が聴いた中で最もこの曲にふさわしい演奏だと考えたのは、

です。ぜひ聞いてみてください。

知覚したことと感受したこととの関わりについて再度考えるよう促す。

①には「子犬のワルツ」の良さについて、②には今回学習した中で最もこの曲にふさわしいと感じた演奏について、自分の考えを整理して作成しよう。また、自分の考えがよく伝わるよう、感じたことや気付いたことの関わりについて考えながら理由を整理しよう。

私が考えるこの曲のよさは、

① そう考えた理由は、

です。

です。

そして、私が聴いた中で最もこの曲にふさわしい演奏だと考えたのは、

です。

文頭と文末の基本形を示しておき、書き出しに困ることなくスムーズに文章の作成に入れるようにするとともに、生徒同士の様々なやりとりも効率的に行えるようにする。

ク 観点別学習状況の評価例

(ア) 知識・技能の評価について

「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント	「子犬のワルツ」について、曲想や演奏の表現上の効果と、音楽を形づくっている要素の特徴とを関連付けておおむね妥当な内容を書いている。
「十分満足できる」状況(A)と判断する例	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについての <u>的確に理解し、妥当な内容を具体的かつ詳細に</u> 書いている。
「努力を要する」状況(C)と判断する生徒への働きかけの例	例えば、曲想や表現上の効果と音楽の構造とをうまく関連付けて考えられていない生徒については、ワークシートの記述をもとに、捉えた曲想と関係のある音楽を形づくっている要素に意識を向けられるよう対話するなどして働きかける。

(イ) 思考・判断・表現の評価について

「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント	「子犬のワルツ」と自身が選択した演奏のよさについて、本題材の学習を踏まえ、強弱やテンポ等の要素の働きと感受したことを関連付けながら考え、おおむね妥当な内容を書いている。
「十分満足できる」状況(A)と判断する例	強弱とテンポ等の要素の働きと感受したことを適切に関連付けながら考え、具体的な事項を根拠として挙げながら、妥当な内容を具体的かつ詳細に書いている。
「努力を要する」状況(C)と判断する生徒への働きかけの例	例えば、楽曲のよさについては書いているが、選択した演奏のよさについての文章作成の活動が停滞している場合には、自身が聴き比べた演奏についてのメモからそれぞれの違いについて改めて考えさせるとともに、前時の学習で捉えた楽曲の特徴等と照らし合わせてそれぞれの演奏の価値を見いだせるよう対話するなどして働きかける。

(ウ) 主体的に学習に取り組む態度の評価について

<p>「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各時の学習活動において、生徒の活動の様子、発言やつぶやき等を観察する。また、ワークシートの記述内容から取組の状況について評価し、補完的に扱いながら、第3時に総括的に評価する。 ワークシートに「学習の振り返り」の欄を設け、各時間の自己の学習を振り返り、自らのよかった点や改善点等について記述することや、次の学習に見通しをもって取り組めるような内容を記述することをあらかじめ指導する。
<p>「十分満足できる」状況(A)と判断する例</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察において、ICT機器を活用し様々な演奏を聴き比べる場面で楽曲の特定の箇所を繰り返し聴いたり、聴き比べたりするなど、自ら鑑賞のねらいをもって学習に取り組んでいる様子が見える。 ワークシートにおいて、学習課題を自分事と捉えて具体的に考えを記述するとともに、自らの学習状況を把握し、自己の学習を調整しながら取り組んでいる状況等を見取ることができる。
<p>「努力を要する」状況(C)と判断する生徒への働きかけの例</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、題材の第2時における「楽曲と演奏についてそのよさを紹介する文章を作成する学習活動」において、活動が自身の考えを整理することに向かっていない生徒に関しては、それまでのワークシートの記述に基づいて対話したり、一緒に鑑賞したりして、考えさせたり、自分の思いに気付かせたりしながら、学習の進め方等について見通しがもてるよう支援する。 例えば、ワークシートの「学習の振り返り」を記述する際に、適正な自己評価ができていない生徒に対しては、本時の学習のねらいに沿って、振り返る内容を確認させ、本時の活動の様子について質問したり、その時間のワークシートへの記述等を見直すように助言したりするなどして、ねらいに沿った振り返りができるよう支援する。

(2) 美術 I の計画例

ア 題材名 ロゴタイプを刷る

イ 内容のまとめ 「A表現」(2)デザイン、「B鑑賞」(1)鑑賞ア(イ)、イ(イ)及び〔共通事項〕

ウ 題材の目標

(ア) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・造形的な要素である形体や色彩の働き、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、様式などで捉えることを理解する。〔共通事項〕
- ・版種やロゴタイプの特性を生かしているとともに表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。「A表現」(2)イ

(イ) 「思考力・判断力・表現力等」に関する題材の目標

- ・使う場面を想定するなどデザインの機能や効果、ロゴタイプや版種の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。「A表現」(2)ア
- ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。「B鑑賞」(1)ア
- ・デザイン作品から美意識や創造性などを感じ取り、日本のデザインの歴史や文化について考え、見方や感じ方を深める。「B鑑賞」(1)イ

(ウ) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・主体的に身の回りのデザインを見つめ感じ取ったことを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に作品の造形的なよさや洗練された美しさを感じ取り、作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形体や色彩の機能や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>技 ロゴタイプや版種の特性を生かしているとともに表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。</p>	<p>発 使う場面を想定するなどデザインの機能や効果、ロゴタイプや版種の特性などについて考え、創造的な構想を練っている。</p> <p>鑑 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさや創造的な表現の工夫、美意識や創造性を感じ取り、日本のデザインの歴史や文化について考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に身の回りのデザインを見つめ感じ取ったことを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に作品の造形的なよさや洗練された美しさを感じ取り、作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

オ 題材の指導と評価の計画（9時間）

授業の中で表れる能動的な姿から見取る

時	ねらい、言語活動等	知	思	態	
1 (1時間)	文字や記号のデザインについて鑑賞し、身の周りのロゴタイプを探して観察する。	○	○	○	ワークシートや活動の様子から見取る
2～3 (2時間)	ロゴタイプを創る。		○	○	試行錯誤などの取組の様子から見取る
4～5 (2時間)	シルクスクリーンの製版をする。	○		○	丁寧さなど取組の様子から見取る
6～7 (2時間)	シルクスクリーンの試し刷りをする。	○		○	
8 (1時間)	シルクスクリーンで刷る。	○	○	○	
9 (1時間)	自他の作品を鑑賞し、鑑賞カードに記し、意見交流する。		○	○	鑑賞カードから見取る

カ 指導と評価の計画（1～3時間目／9時間）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	留意点・評価方法
作品鑑賞（1時間目／9時間） 「文字のデザイン」 ●主体的に形体や色彩の機能、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、書体を様式などで捉えることを理解する。 ・既習事項としてレタリングの要点を確認する。 ●目的や機能との調和の取れた洗練された美しさや創造的な表現の工夫、美意識や創造性を感じ取るとともに、日本のデザインの歴史や文化について考え、見方や感じ方を深める。 ・デザインの鑑賞の創造活動に取り組む。	知	鑑	態鑑	知 鑑 態鑑 既習事項に差があることに配慮し、レタリングの復習からロゴタイプへ発展させて鑑賞させる。主体的に作品の造形的なよさや洗練された美しさを感じ取るように促す。 【発言の内容、ワークシート】 知 基本的な文字の構造を理解し、ロゴタイプの特徴を捉えたかを評価する。 鑑 ロゴタイプの目的や機能との調和のとれた洗練された美しさや創造的な表現の工夫、美意識や創造性を感じ取り、見方や感じ方を深めているかどうかを評価する。 態鑑 主体的に造形的なよさ

キ 学習指導案（2時間目／9時間）

本時の目標：主題を生成し創造的に発想することができる		
過程	○学習内容 ・ 学習活動	●指導上の留意点 ◆評価
導入 3分	○前時の既習事項の確認 ・鑑賞と表現を関連付けることを再確認する。 ○本時の内容の確認 ・2段階の制作活動の元となる発想の活動であることを確認する。	●文字の基本の構造を再確認させる。 ●知的財産権や表現と社会との関わりについて配慮させる。
展開 45分	○ロゴタイプを制作する「語」を発想する ・造形的に表現するための「語」を選ぶ。 ・トートバッグに刷って持ち歩くことを想定して「語」を選ぶ。 ・近くの席の生徒同士で意見交換し、より相応しい「語」の選定へつなげる。 ・その「語」に相応しい形の工夫の試行も始め、完成の見通しを立て、困難が予想される場合は別の案も検討する。	●机間巡視し、発想を促す言葉かけをする。 ●使用場面や、他人の目に触れることにも配慮させる。 ◆持ち歩きに相応しい「語」を発想しようとしていたか、製版に適した文字数や密度のものを選べたか確認する。
まとめ 2分	○振り返りと次時の見通し ・適当な「語」を選び出すことができたか確認する。	●次回は文字の形を完成させ、製版の原稿とすることを確認する。

学習指導案（3時間目／9時間）

本時の目標：創造的に構想を練ることができる		
過程	○学習内容 ・ 学習活動	●指導上の留意点 ◆評価
導入 3分	○前時の内容の確認 ・ロゴタイプを創る「語」を選ぶ。 ○本時の内容の確認 ・構想したものをよりよくするために、1つの案でも様々な修正を加えたり、複数案を比較検討したりするなど、試行錯誤の末に形を決定する。 ・版の原稿とするための条件を確認する。	●文字の構造を大切にさせる。 ●シルクスクリーンの特性を説明し、刷りの工夫で表せることも知らせる。 ●次時の製版では本時作成の原稿をなぞるため、最終的には明確な形を描ききる必要があることを周知する。
展開 45分	○ロゴタイプを制作する ・その「語」に相応しい姿となるよう形を工夫する。 ・全体の統一感を失わないように原則を決めて描く。 ・文字であることを損なわないように注意して進める。 ・後の製版に備え、適当な密度に明確な線で仕上げる。	●机間巡視し、進捗状況を確認する。 ●個々に原則を決めさせるが、含まれる文字の形により例外としなければならない場合は柔軟に対応させる。

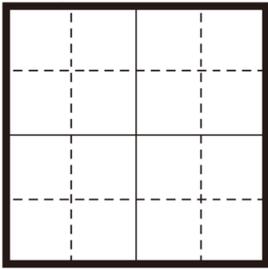
		<ul style="list-style-type: none"> ●判断に迷ったり行き詰まったりした場合は、別の案も描かせ比較検討させる。 ◆相応しい姿・全体の統一感のある形に工夫しようとしたか、製版に適した密度に明快な線で描けたかを確認する。
まとめ 2分	<p>○振り返りと次時の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相応しい姿を全体の統一感をもたせて明確な線で形を描けたか、このロゴタイプを次時に製版の原稿とすることを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●次時は製版することを確認する。 ◆進捗状況を確認し、特に線描が不十分な場合は次時の初めに整えさせる。

[ワークシートの例]

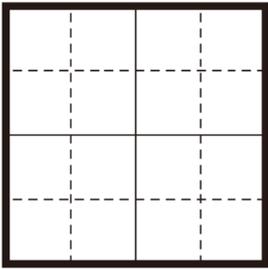
組 氏名

レタリング - 文字の大きさをそろえ、形のルールに基づいて書く - 活字
 枠いっぱいに仕上げる (原則) ↔ (例外) 視覚調整が必要な場合がある
 ① 仕上げの密度 (形や画数や太さ) に配慮して、骨格を描く
 ② ルール (原則) に基づいて、肉付けする

明朝体



角ゴシック体



ロゴタイプ - 語の型 = 文字の組み合わせが決まっている ※並べ替えて使えなくてよい
 その「語」にふさわしい姿をめざす … 意味や個性を表す工夫をする
 高さ・太さ・傾きなどのルール (原則) づくりが大切 ※装飾は不要
 ☆でき上がったロゴタイプは、版を作ってトートバッグに刷ります

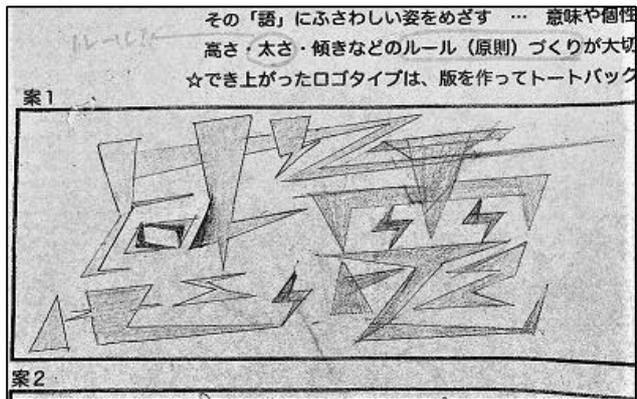
案1

案2

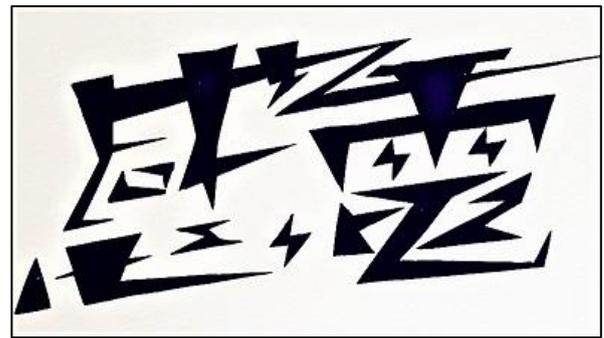
中学校の既習事項である「レタリング」を復習する。
 代表的な明朝体とゴシック体を例として示し、構造などの要点や制作の手順などを確認する。
 授業では説明のみとし、必要な生徒が任意で練習する。

レタリングとは違う、ロゴタイプ特有の構造など制作の注意点などを記す。
 製版可能範囲を枠で示し、複数の案を比較・検討することを促すため、枠を2つ用意している。

[生徒の取組例]



① ワークシート上で、構想を練る



② 製版し、基本の刷りの要領を知る



③ 背景色やグラデーションの試行

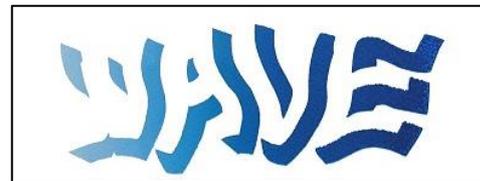


④ 背景色の変更と、重ね刷りの試行

[版種の特徴を生かした工夫の例]



① グラデーション



② 背景色の違いによる対比



③ 色違いの対比



④ 重ね刷り

[作品例]



トートバッグに作成したロゴを刷ったあと、作品の持ち帰りなどで実用することも可能となる。また、持ち歩くことを前提に、様々な場面で他者の目に触れることに配慮するデザインの制作活動となる。完成後、他の生徒のバッグを見るだけではなく、使用場面を想像する鑑賞活動となる。

ク 本事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価規準		◎ A の具体例、■ C への手立て
知	形体や色彩の機能や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、様式などで捉えることを理解している。	◎ロゴタイプの機能や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、様式などで捉えることを幅広く理解している。 ■より実感的に理解できるように、具体例を示すなどして考えさせる。
技	ロゴタイプや版種の特性を生かしているとともに表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。	◎ロゴタイプの特性を生かして創意工夫し試行錯誤を重ねた末の案から、目的や計画を基に選りすぐり創造的に表している。 ■文字の構造や様式の統一など確認しながら設計させる。 ◎版種の特性を生かして試行錯誤を重ねたことから得られた技術を工夫して刷っている。 ■刷り方を実演するなど具体例を示し工夫させる。
発	使う場面を想定するなどデザインの機能や効果、ロゴ	◎使う場面を想定するなどデザインの機能や効果、ロゴタイプや版種の特性などについて繰り返し考え、創造的な構想をよりよくすべく練り上げている。

	タイプや版種の特徴などについて考え、創造的な構想を練っている。	■使用場面や印刷などの具体例を示し、段階的に発想の手がかりを与える。
鑑	目的や機能との調和の取れた洗練された美しさや創造的な表現の工夫、美意識や創造性を感じ取り、日本のデザインの歴史や文化について考え、見方や感じ方を深めている。	◎目的や機能との調和の取れた洗練された美しさや創造的な表現の工夫、美意識や創造性をより深く実感している。 ■デザインの目的、機能、調和の取れた洗練された美しさについて各項ごとに具体例を示し、段階的に理解させる。 ◎日本のデザインの歴史や文化について時代背景も踏まえながら深く考え、見方や感じ方をより深めている。 ■そのデザインが生み出された当時の社会や人々の様子を示すなどして興味をもつきっかけを与える。
態表	主体的に身の回りのデザインを見つめ感じ取ったことを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。	◎主体的に身の回りのデザインを見つめ感じ取ったことを基にした表現の創造活動に取り組む、よりよい作品を生み出す努力を重ねている。 ■身の回りを見直すこと、感じ取ったことを基に表してみることなど、段階的に示し、取り組めるよう支援する。
態鑑	主体的に作品の造形的なよさや洗練された美しさを感じ取り、作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	◎主体的に作品の造形的なよさや洗練された美しさを深く感じ取り、作品や美術文化の鑑賞の創造活動に積極的に取り組んでいる。 ■造形的なよさや洗練された美しさのポイントを示すことにより鑑賞の糸口を与え、作品や文化に興味をもたせられるよう支援する。

(3) 工芸 I の計画例

ア 題材名 ペアのコーヒーカップを作る

イ 内容のまとめ 「A表現」(2)社会と工芸、「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕

ウ 題材の目標

(ア) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・陶芸のもつ性質や用途を吟味して表現することを理解する。(共通事項)
- ・制作方法や素材、用途の特徴を理解し、自らの計画を基に作品を創造的に表す。
(「A表現」(2)イ)

(イ) 「思考力・判断力・表現力等」に関する題材の目標

- ・使う人の感情にもたらす効果を考え、使いやすく創造的な作品になるよう構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・陶芸のもつ素材や表現の美しさを感じ取り、生活や社会にある造形的な見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア)

(ウ) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・社会的な視点に立って作品を使用する状況を主体的に考え、生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・社会的な視点に立って作品の造形的な美しさを主体的に感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 陶芸のもつ性質や用途を吟味して表現することを理解している。</p> <p>技 制作方法や素材、用途の特徴を理解し、自らの計画を基に作品を創造的に表している。</p>	<p>発 使う人の感情にもたらす効果を考え、使いやすく創造的な作品になるよう構想を練っている。</p> <p>鑑 陶芸のもつ素材や表現の美しさを感じ取り、生活や社会にある造形的な見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 社会的な視点に立って作品を使用する状況を主体的に考え、生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 社会的な視点に立って作品の造形的な美しさを主体的に感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

オ 題材の指導と評価の計画（8時間）

時	・学習活動 *指導上の留意事項	知	思	態
1～2 (2時間)	・陶芸の歴史や粘土の特性（可塑性等）について学び、板作りの制作方法を身に付ける（カップを1つ制作する） *石膏型と素地の状況について、常に確認させる。 *示範作品や配付資料等を用い、生徒の発想を具体化させる手助けをする（図1参照）。		○	
3～4 (2時間)	・大きさや構造について考察してデザインし、制作工程表を作成する。 ・ICTを活用し陶芸のデザインや歴史を調べる。		○	○
5～6 (2時間)	・制作工程表を基に制作する。	○		○
7～8 (2時間)	・作品鑑賞と振り返り		○	○

総合的な探究の時間で既習の「考えるための技法（OODAループ※など）」を活用

取組状況で見取る

鑑賞シートで見取る

※OODAループとはObserve（観察）、Orient（状況判断）、Decide（意志決定）、Act（実行）の枠組みを基に意志決定し実行するための思考法の1つ。

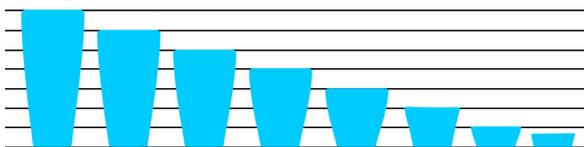
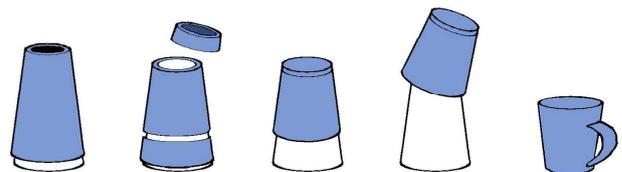


図1：どこからどこまでがコーヒーカップか？
(配付資料)



① → ② → ③ → ④ → 完成
図2：制作の流れ（配付資料）

カ 指導と評価の計画（5～6時間目／8時間）

学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	留意点・評価方法
●前時の内容を振り返る ・返却された制作工程表を基に、本時の制作工程をイメージする。	技		態表	【知・技】 自らの計画を基に局面に対応しながら丁寧に制作しているかを見取り評価する。
●発想したことを基に創造的に表す（図2参照） ①石膏型に粘土を巻き付け、接着する。 ②不要部分を切り取る。 ③底面部分の粘土を接着し、乾燥させる。 乾燥中に、ハンドル部分と2個目の制作を始める。				【制作途中の作品】 態表 使用する状況を考えながら、機能や美しさについて考えを深め、主体的に表現活動に取り組もうとする態度を評価する。
④石膏型から外し、ハンドルを付けるなど仕上げをして完成させる。	知・技		態表	【活動の様子】

キ 学習指導案（5～6時間目／8時間）

本時の目標：石膏型を用いた制作方法を理解し、計画を立て、ペアのコーヒーカップを制作することができる。		
過程	○学習内容 ・学習活動	●指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	○本時の確認 ・事前に必要な道具などを準備しておく。 ・教員からの指示を聞き、制作工程表を基に本時の制作工程をイメージする。	●制作工程表を返却し、制作の流れを説明する。 ●造形的に困難と思われる表現等は事前にチェックしておく。
展開 85分	○石膏型を用いた板作りによるペアカップの制作 ・石膏型と生地の状態を確認し、制作を進める。生地が乾燥しないよう注意し、焼成時に破損しないよう、生地とハンドルの圧着は特に丁寧に行う。	●机間指導を行い、制作の支援をする。 ◆状況に対応しながら制作しているかを確認する。
まとめ 10分	○振り返りと後片付け ・当初のイメージ通りに制作できたか振り返り、改善箇所を挙げ今後の制作に活かす。 ・作品を提出し、後片付けをする。	●制作に関して上手くいったところや難しかったことを考えさせ、より深く制作について考えられるよう促す。 ◆作品を回収し、個々の表現を見取り評価する。

ク 観点別学習状況の評価例

題材の評価規準		◎Aの具体例 ■Cへの手立て
知	陶芸のもつ性質や用途を吟味して表現することを理解している。	◎陶芸のもつ性質や用途を吟味して表現することを理解し、造形的な特徴を基に作品を捉えている。 ■示範作品や配付物などの具体例を示し、素材の特徴をより深く理解できるよう考えさせる。
技	制作方法や素材、用途の特徴を理解し、自らの計画を基に作品を創造的に表している。	◎制作方法や素材、用途の特徴を理解し綿密な計画を立て試行錯誤しながら作品を創造的かつ丁寧に表している。 ■示範作品や実演机間指導等を通して、生徒が表したいことを整理させる。
思	使う人の感情にもたらす効果を考え使いやすく創造的な作品になるよう構想を練っている。	◎使う人の感情にもたらす効果を考え、使いやすく創造的な作品になるよう構想し、PDCAサイクルやOODAループを用いながら綿密な作業工程を立てて制作に臨んでいる。

		<p>■構想時に社会や身近な生活等これまでの経験をイメージさせながら考えさせる。</p>
鑑	<p>陶芸のもつ素材や表現の美しさを感じ取り、造形的な見方や感じ方を深めている。</p>	<p>◎陶芸のもつ素材や表現の美しさを感じ取り、生活や社会にある造形的な見方や感じ方を深めている。</p> <p>■鑑賞時に他の作品を効果的に取り上げ、機能や美しさについて考えられるよう支援する。</p>
態表	<p>社会的な視点に立って作品を使用する状況を主体的に考え、生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとしている。</p>	<p>◎社会的な視点に立って作品を使用する状況を主体的に考え、生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組む、機能や美しさについて考えを深め、作品をよりよくしようと表現活動に取り組もうとしている。</p> <p>■制作過程での注意点や素材の特徴に対して改めて気付きを与え、物の見方や感じ方が深められるよう支援する。</p>
態鑑	<p>社会的な視点に立って作品の造形的な美しさを主体的に感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>	<p>◎社会的な視点に立って作品の造形的な美しさを主体的に感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、物の見方や感じ方を深めようとしている。</p> <p>■表現の学習活動で学んだことと関連させて、作者の意図や制作表現を感じ取れるよう気付きを促し、鑑賞シートの項目を確認しながら取り組めるよう支援する。</p>

(4) 書道 I の計画例

ア 単元名 漢字仮名交じりの書を通して、文房四宝と書を構成する要素との関わりを理解する

イ 内容のまとめ 「A 表現」(1)漢字仮名交じりの書イ(ア)
「B 鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕

ウ 単元の目標

(ア) 「知識及び技能」

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。(「A 表現」イ(ア))
- ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。(「B 鑑賞」イ(イ))
- ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する。(〔共通事項〕イ)

(イ) 「思考力・判断力・表現力等」

- ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現を捉える。(「A 表現」ア(イ))
- ・鑑賞に関わる知識を生かしたりしながら、作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉える。(「B 鑑賞」ア(ア)、(イ))

(ウ) 「学びに向かう力・人間性等」

- ・書の高さや美しさを感じ、作品の高さや書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書の対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。知【表現】 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。知【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現を捉えている。思【表現】 ・鑑賞に関わる知識を生かしながら、作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。思【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書の高さに基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。態表 ・書の高さや美しさを感じ、作品の高さや書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。態鑑

オ 単元の指導と評価の計画 (6 時間)

時	ねらい、学習活動	知	思	態
1～2 (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元のねらいを把握する。 ・書道室にある文房四宝とその特徴を確認する。 ・文房四宝に関する DVD 鑑賞をする。 ・文房四宝について、タブレット等を活用し、より深めていきたいものを 1 つに絞り、調べ学習をする。 	○		○

【探究のプロセス】
課題の設定、情報の収集

	<ul style="list-style-type: none"> 日本及び中国等との書を取り上げ、焦点を当てた文房四宝と表現効果や風趣との関わりについて調べ、考察する。 					
3～4 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 焦点を当てた文房四宝ごとにグループをつくり、調査内容を共有・協議し、焦点を当てた文房四宝と表現効果や風趣との関わりについて考察を深める。 グループごとに、調査内容と考察をまとめ、発表準備をする。 	○			○	<p>対話によって自分の考えを広げたり、深めたりする場面</p> <p>【探究のプロセス】 整理・分析</p>
5～6 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに、調査内容と考察を発表する。 他のグループの発表内容から得た新たな書に関する見方、考え方をワークシートに記述する。 中野北溟「ふるさと（海）」の作品を鑑賞し、文房四宝と書を構成する要素とを関連付けて、その書の美しさや、よさを捉えワークシートに記述する。 今回の単元を通して、文房四宝と表現効果との関わりについて、新たに得た書に関する見方、考え方を今後の作品制作にどのように生かしたいかワークシートに記述する。 					<p>【探究のプロセス】 まとめ・表現 【教科等横断的な学習】 他教科・他科目との関連</p> <p>【探究的な学び】 見方、考え方を働かせる</p>

カ 学習指導案（3～4時間目/6時間中）

活動の流れ	時間	ねらい 学習活動	指導上の 留意点	評価の方法				
				知	技	思	態表	態鑑
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を把握し、前時との繋がりを確認し、本時の活動の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を伝えるとともに前時の学習を想起させて繋がりをもたせる。 					
展開	80分	<ul style="list-style-type: none"> 同じ分野を選択した生徒で、グループを構成し、各自調べたことを伝え合い、グループ内でシェアする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1グループが4名程度となるよう、人数のバランスや前時の調べ学習の状況を考慮してグループを構成する。 	ワ ◎			観 ◎ ワ ●	

		<ul style="list-style-type: none"> グループに配布された模造紙に、学習を通して気が付いたこと、課題や将来性などを思考しながら、まとめる。 筆・墨・硯・紙と日常生活との結び付き、社会との関連について、幅広い視点から考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用させながら、多角的な視点をもたせられるよう、関連付けられるカテゴリーを伝えるなど配慮する。 個人のワークシートに、社会や生活（伝統・文化）等に関連付けた考えを記述するよう示唆する。 				観 ◎	
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> 次時の発表活動に向けて、司会者・発表者等を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員で取り組むことを前提に自己の役割・当事者意識をもつよう再確認させる。 				観 ◎	

キ 観点別学習状況の評価例

評価の観点と単元の評価規準		<ul style="list-style-type: none"> ○「おおむね満足である」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て 	
知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。【表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ○用具・用材の特徴と表現効果との関わりについておおむね理解している。 ◎上記に加えて、前時のDVD鑑賞から、調べたことを文字化・言語化したりする活動を通して、実感的に理解している。 ◆DVDやタブレットを活用するなどしてして振り返らせ、理解できるよう支援する。
	知	<ul style="list-style-type: none"> 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について、おおむね理解している。 ◎上記に加えて、鑑賞から、調べたことを文字化・言語化したりする活動を通して、実感的に理解している。 ◆DVDやタブレットを活用するなどしてして振り返らせ、理解できるよう支援する。

思考・判断・表現	思	<ul style="list-style-type: none"> 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現を捉えている。 【表現】 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について、おおむね味わって捉えている。 ◎上記に加えて、文房四宝の目的や特徴を実感的に味わって捉えている。 ◆目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について、これまでの知識と関連させたりするように促す。
		<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞に関わる知識を生かしながら、作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞に関わる知識を生かしながら、書の高さや美しさについて、おおむね味わって捉えている。 ◎上記に加えて、作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。 ◆書作品を通して得た感想を参考にしたり、これまでの知識と関連させたりするように促す。
主体的に学習に取り組む態度	態表	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書の特徴に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書の特徴に基づく幅広い表現の学習活動について、粘り強く取り組もうとしている。 ◎上記に加えて、幅広い表現活動に主体的に取り組む、漢字仮名交じりの書を深く味わおうとしている。 ◆既得の知識を生かして、主体的に臨めるよう支援する。
	態鑑	<ul style="list-style-type: none"> 書の高さや美しさを感じ、作品の高さや書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書の高さや美しさを感じ、幅広い鑑賞の学習活動に、粘り強く取り組もうとしている。 ◎上記に加えて、作品の高さや書の意味や価値について深く考えようとしている。 ◆学習した、文房四宝から、自身の取組を振り返らせ、既得の知識を生かして、主体的に臨めるよう支援する。